

意見提出者	個人
1. 項目	国家戦略室の「社会保障・税に関わる番号制度」
2. 既存の制度・規制等によってICT利活用が阻害されている事例・状況	<p>①所謂、この「国民総ゼッケン制」は、ネットのブロックングと「合体」すると、行政の恣意的濫用により、「個人識別一大検閲システム」が完成してしまうおそれがある。このような恐怖システムが完成してしまうと、国民は安心してネット利用ができず、「ネット委縮」「ネット壊滅」がおきるおそれがある。</p> <p>②個人情報の他目的利用の危険が払拭できない。「第三者機関」が管理するにしても、漏洩の危険は否定できない。情報漏洩により自分の個人情報为他人によって書き換えられる、なりすましや偽造の危険も否定できない。</p> <p>③以前の、社会保険庁のように行政側の記入漏れや記入間違いが起きると、全国的な大騒ぎになる。</p> <p>④一番最低のラインで5～6千億円の予算概算がでていますが、前述のネットのブロックングと合わせると、○兆円レベルの血税が必要になってくるおそれがある。苦しい国家財政下、国民の人権侵害になるおそれがある政策案にまわす莫大な予算があるのならば、宮崎口蹄疫の支援復興対策にその予算をまわすべきである。</p>
3. ICT利活用を阻害する制度・規制等の根拠	-
4. ICT利活用を阻害する制度・規制等の見直しの方向性についての提案	このような危険にして莫大な血税がかかる政策案はやめるべきである。